

秀逸

八幡宮の図書館で

鈴木 桂子

八時半

八時半

八時半までには絶対並ぶ

そうしないと

席が取れない

朝が苦手な高校生の私には

毎日過酷なミッションだったに
違いない

かぶと虫の絵の整理券が配られ
て

列の長さに一安心

入場までの三十分

入口近くの楠の木陰で

ペーパーバック『ムーミン谷の
冬』を読む

受験英語長文問題対策

わら半紙みたいな茶色い紙

「All things are so very uncertain,
and thats exacty what makes me
feel reassured.

物事ってものはみんな曖昧なも
のよ。

まさにそのことが私を安心させ
るんだけどね」

あの夏は

父を亡くしてすぐの夏

市川市民の友達が

勉強場所を教えてください

それが八幡宮の図書館だ

建物は床も窓枠もすべて木で

二階の部屋が自習室

廊下を歩けばきしきしきし

冷房の温度は変えられず

昼には身体を温めに隣の公園

で一休み

夏季講習に出かける友達を見
送って

ひとりでお昼を食べたっけ

京成電車も通るのに

蝉も鳴いていただろに

思い出すのは静かな夏

あの木造の図書館に

胎児のように籠ってた

静かな夏を思い出す